

子どもは地域の宝物

～上分の子どもは上分で育てよう～

上分小中学校支援地域本部（須崎市）

■ 基本データ（平成28年度）

- 対象学校名 : 上分小中学校
(全校児童数51名、全校生徒数20名)
- 設置年度 : 平成28年度
(平成20年度～22年度にも実施)
- 協議会
名称 : 学校応援隊実行委員会（年3回開催）
委員数 : 9名
委員構成 : 公民館長(1)・学校支援推進委員(1)・校長(1)・教頭(2)・清流クラブ(1)
・かわうそ未来塾実行委員(1)・学校応援隊(1)・民生児童委員(1)
※協議会は、運営委員会とは別に、地域の实情に応じて学校ごとに設置可能
- コーディネーター等 : コーディネーター1名、教育活動推進員11名
教育活動サポーター80～100名程度
- ボランティア登録者数 : 登録制ではない（年間延べ360人が参画）
- 地域連携担当教職員 : 無(管理職が対応)
- 支援日数 : 上分小学校 年間約120日、上分中学校 年間約70日



<地域の方々と一緒に給食>



<地域の方々と一緒に合唱>

■ 本部設置までの経緯

- 平成20年度～平成22年度まで文部科学省委託事業を実施し、学校支援地域本部事業実行委員会を設置。
- 以降、「学校応援隊実行委員会」を置き、学校支援活動・学校と地域の協働活動を継続。
- 平成28年度より、学校支援地域本部事業を申請。

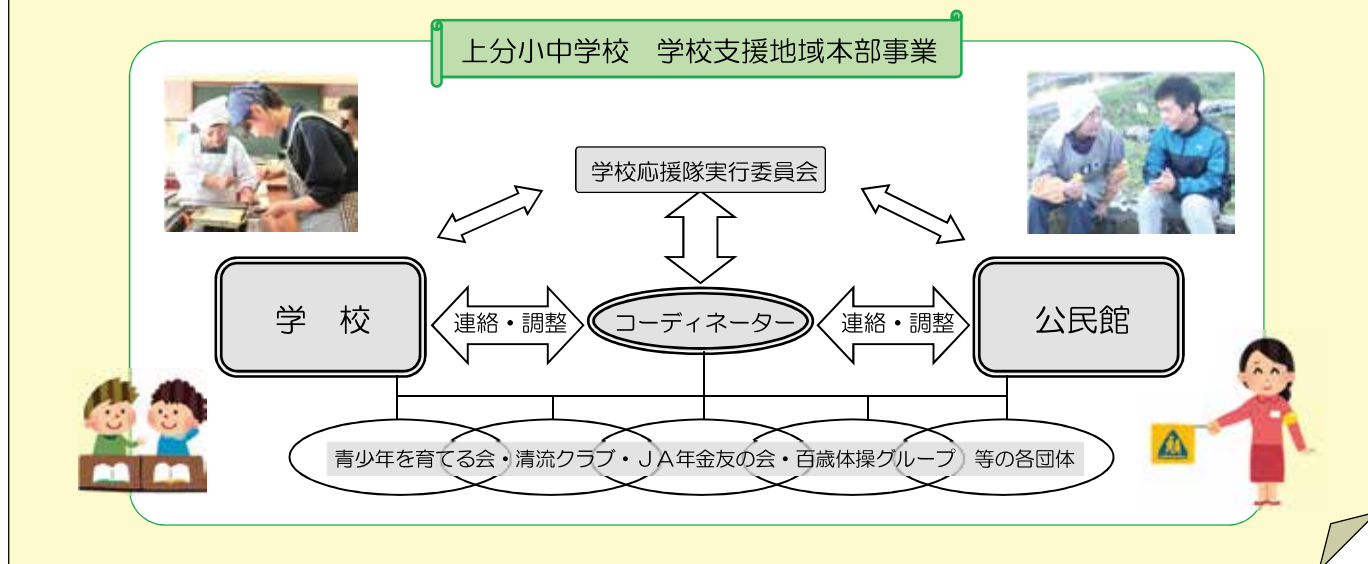
■ 主な支援内容

- 環境整備
- 登下校安全指導
- 学校行事
- 小学校支援
 - ・地域学習
 - ・植栽活動
 - ・交流学习
- 中学校支援
 - ・地域伝承
 - ・郷土料理
- ・プリントの丸付け
- ・昔遊び伝承
- ・読み聞かせ
- ・書写指導
- ・スポーツ
- ・美化活動
- ・部活動
- ・書写指導
- ・いのちの授業

■ 特色ある取組～運営の仕組み～

小・中学校とともに、学校経営方針として「『全教職員が全校児童・生徒を育てる』意識を持ち、常にチームワーク（協働）で地域との連携を図り、地域とともに15年間を見据えた小中一貫教育の質と実現性を高める。」を掲げています。

校区内には、かわうそ未来塾実行委員会（市教育委員会・上分公民館主催）が組織されており、かわうそ未来塾（4・5年生を対象とし、1週間、公民館で炊事・洗濯・掃除を行いながら寝泊まりし、公民館から登下校を行っている活動。28年度で16回目。毎年100名以上のボランティアが参加。）等を行うなど、地域との関わりが深い学校づくりができています。



■ 地域コーディネーターの活動

- ・コーディネーターは、須崎市が各校に配置している「学校支援推進員」が行っています。
- ・地域コミュニティの核である公民館とつながりを持ち、学校の思いと地域の思いを十分に汲んで、子どもたちにとっても地域住民にとっても意義のある活動を作っていきます。
- ・教職員の異動があっても、学校や地域の伝統や歴史を繋いでいくことを大事にしています。

（例）コーディネーターのある一日

- 8:00～ 教員との打ち合わせ
(目標・要望・日時・ボランティアの人数確認)
- 8:40～ 読書ボランティアとの懇談・打合せ(日時、要望等確認)
- 10:00～ 地域交流授業 取材
- 13:00～ 学校図書館サポート
- 13:30～ 掲示板記事作成
- 16:00～ かわうそ未来塾支援

【活動場所】

コーディネーター（=学校支援推進員）が職員室に配置されていることにより、管理職や教職員、各団体との打合せなどがスムーズに進みます。

【活動内容】

毎日、学校と地域をつなげる業務、学校内の教育支援活動を行っており、幅広く活動しています。



<地域の方に聞き取り学習>



<わら縄づくり>

■ 活動を支える人材の確保

【コーディネーター（学校支援推進員）】

須崎市では、平成22年度から用務員制度を廃止し「学校支援推進員」を各校に配置して地域ぐるみの教育を推進しています。

月に一度、各校の学校支援推進員が集い、情報共有等も図っています。市全体としても「教職員地域体験活動」という研修を企画・運営し、須崎市に勤務する教職員の地域理解を促進しています。

【ボランティア（環境整備・学校行事・かわうそ未来塾等のボランティア）】

学校と公民館が情報を共有し、地域とのネットワークを結んでいます。

学校応援隊実行委員や各団体のリーダーが教育活動推進員となり、行事の実施に向けた住民との連絡や目的の共有に努めています。

■ イベントカレンダー

- 4月 あいさつ運動・田植え
登下校見守り
- 5月 第一回実行委員会開催
グランドゴルフ
百歳体操交流
- 6月 かわうそ未来塾
いものつるさし
- 7月 清流を守る事業
- 8月 愛校作業・稲刈り
- 9月 あいさつ運動
登下校見守り
- 10月 第二回実行委員会開催
昔遊び&交流給食
- 11月 小中合同文化祭
校内弁論大会
いもほり・収穫祭
- 12月 門松づくり・郷土料理
- 1月 あいさつ運動
登下校見守り
- 2月 第三回実行委員会開催
- 3月 学校橋清掃

【その他】

- ・読み聞かせ
- ・学習支援
- ・植栽活動
- ・部活動支援
- ・図書館、校内外環境整備

【活動の様子】

公民館で活動している「百歳体操グループ」の代表と連絡を取り、学習の目的や地域の方々の思いを聞き取りながら、教員と共に交流計画を立てています。

学校の総合的な学習の時間としての学びと地域住民の元気の源にもなっています。



【広報活動】

活動の様子を取材し、学校掲示板にポスターを掲示しています。

「公民館だより」の記事でも扱われることがよくあります。

☆企画・運営のポイント

校舎内に、保護者や地域住民の方が使える「学校応援隊の部屋」（地域ボランティアスペース）を設置しており、情報共有や話し合いの場として活用しています。

■ 広報活動

学校近くの掲示板にポスター掲示して、かわうそ未来塾や清流を守る事業「クリーン新莊川大作戦」等への協力を呼びかけ、たくさんの方のご協力をいただいています。

また、チラシを作成し、校区内の全戸への配布をしています。その他、全国生涯学習フォーラム・特別活動四国大会、四国地区人権教育研究大会等で発表し、広く取り組みを知ってもらうようにしています。

地域と学校を結ぶための活動

夏祭り・ハイキング・地区民運動会等の地域行事に、教職員も可能な限り積極的に参加をして、地域と学校を結ぶための活動に努めています。

■ ボイス（各関係者からのご意見を集めました）

コーディネーター

地域の方が、学校のあいさつ運動や栽培活動に参加して下さったりすることは、少人数の上分小中学校では、大きな教育効果につながっていると思います。

地域の方々が「子どもと活動して楽しかった。」「子どもから元気をもらいうきねえ。」「生きちよって良かった。」と言ってくれるのがとてもうれしいです。

地域や学校の思いのすり合わせは大変ですが、楽しくやっています。

支援員・地域の方等

地域住民がこれまで生涯学習で学んできた知識や経験等を生かす場が広がり、自己実現や生きがいづくりにつながっています。

また、地域住民が子どもの発達段階に応じて学校で活動することで、地域の教育力が向上し、これにより地域の絆も強まり、地域の活性化も進んでいます。



子どもたち

- ・ぼくたちにとっては、多くの地域の方が来て、七夕飾りをいっしょに作ったり、お芋を植えたりして、いろいろなことが体験できます。
- ・4・5年生での「かわうそ未来塾」では、おとなの方から「天体観測」や「ドラム缶風呂炊き」、新莊川での「カヌー体験」や「はえなわ漁」、「飯ごう炊さん」など学校ではできないような体験をたくさん教えていただけるのでうれしいです。

学校長

多様な知識や経験を持つ地域の大人と交流する機会が増え、様々な学習活動が展開でき、学校の環境整備も一層図られています。

本校の小中合同文化祭では地域の方の作品展示も行ってきましたが、2年前からは、小中学生とおとなの合唱が実現し、地域ぐるみで文化に触れ合う交流が生まれています。

子どもたちにとっても地域の方々にとっても相乗効果があり、ふるさと上分への愛着が強まるのではないのでしょうか。